

中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事
山本 章博



叱責の場合があるという。監督の指示に素直に従わない選手は、どんなに優秀でも試合で使われない。極端な場合は、退部に追い込まれるとも聞く。

春の選抜高校野球大会をテレビで観戦していて、奇妙に思った場面がある。1球ごとに打席から振り向いて、自量のベンチを見る選手が多いのだ。スクイズなどのケースなら分かるが、ツアアウト、ラナーなしでも同様である。激しい練習を積み重ねた選手たちにも、自分の判断を許さないのであるか？

送りバントを失敗した後、次の球をホームランした選手に、ベンチでは賞賛ではなく「このような指導者と生徒の関係はスポーツ界ばかりでなく、芸術の世界でも存在しているようである。ドイツ、米

「尖った個性」を大切に

思考面の多様性

ドイツでも米国でも、学生は指導に対しても、学生は指導に対して納得するまで、何度でも質問して聞く。黙って指導に従うことはないそうだ。指導者の教えに素直に従うことは、一定の技術の習得には効率的であり、指導者にとっても教えやすい。チームとしてある程度の成績を収めるには、向いているのかもしれない。しかし、それは、傑出した技術や個性あふれる個人を育てることはできない。

最近、日本の産業の衰退を慨嘆する声が高まっている。かつては世界第2位という国内消費だけで

も、何とか産業がなり立っていったから、イノベーションで世界を勝負する必要はなかった。勤勉さとチームプレーで、ある程度の地位にまで来たが、もう限界にきているような印象だ。個性あふれる意見を持つ若者を育てていかなければ、世界に勝てないのではないか。

「全員一致で決定される事項は、たいがい間違っている」と唱える学者もいる。他人とは異なる意見を出せるような若者を、意識的に育ててみたらどうだろうか？ 異なる意見のぶつかり合いこそ、知識は深まり、全体としてレベルが上がると思う。

昨今、多様性ということが言われるが、それは女性の社会進出やジェンダーフリーという社会的側面だけでなく、個人の思考面でも重要なのである。その多様性の前提として、他人の異なる意見に対して、寛容であるべきことはいうまでもない。